



市民だけでは解決できない問題、また行政単独では解決できない問題を持ち寄り、お互いが不足を補い合い、ともに協力して解決しようとする取り組みとして「協働」という新しいかたち  
のまちづくりの手法が注目されています。  
そこで「協働による小牧のまちづくり」をテーマに「協働」の必要性や身近な事例、また24年度からスタートする「協働提案事業化制度」の紹介など、本市の「協働」最前線の特集します。

## 特集

# 協働による小牧のまちづくり

～市民の皆さんが望むまちづくりのために～

協働とは？

「協働」—こんな言葉があるのを知っていますか。新聞やテレビなどで、目にしたという人も、同音の「共同」、「協同」と並べてどう違うかを明確に答えられないのではないのでしょうか。  
広辞苑では、

**共同**…二人以上の者が力を合わせる  
ること

**協同**…ともに力を合わせ、助け合  
て仕事をする  
こと

**協働**…協力して働くこと

とあり、分かりにくいのですが、「**お互いの長所や短所を理解し、対等な立場で役割分担し、共通の目的に向かって一緒に仕事をする**こと」が「協働」と捉えてください。

「コラボレーション」、あるいは「パートナーシップ」という言い方をすることもあります。

今、なぜ  
協働なのか

協働が求められる背景にはいくつかありますが、昨年の東日本大震災から考えてみます。

東日本大震災では、津波で多くの市や町の行政機能が失われ、避難や救助活動が大きく混乱しました。その一方で、避難した住民の皆さんと、全国から応援にかけたボランティアや市町が協力し、食料などの配給や避難生活の維持に努め、大変厳しい状況にもかかわらず難局を乗り切ったことに、世界中が注目しました。

大規模な災害時には、いくら防災対策に努めたとしても、行政だけの対応では限界があります。普段から、住民と行政が協力した防災対策を徹底するとともに、いざというときには、命や暮らしを守るため、地域の住民同士が助け合うことがとても大切です。こうしたことも重要な「協働」の取り組みであると考えます。

# 身近な「協働」の現場にズームイン！

すでに本市においても、さまざまな場面で行政と市民の「協働」は行われてきました。身近な「協働」の事例を紹介します。



ケーススタディ

1

## まちの放送局つくり隊×文化振興課 「まちの放送局つくり隊」による 薪能のガイダンスサービス



▶放送ブースはマイクに雑音が入らぬよう、客席から少し離れた場所に設置。アナウンサー、ミキサーともにプロを起用しています。

まちの放送局つくり隊は市内を対象に情報を発信するコミュニティFMラジオ局の開設を目指して活動する市民グループです。これまでもイベントなどでミニFMラジオ放送（微弱電波を使った放送）を展開し、コミュニティラジオの魅力を市民向けにアピールしてきました。協働のきっかけは、FMラジオを使った薪能のガイダンスサービスを他市で行われていることを知った同会が、「小牧山薪能」でもやってみてはどうかと提案したことでした。そして、平成20年から文化振興課との協働が実現しました。貸出ラジオの事前申込受付は文化振興課が行い、

ケーススタディ

2

## 小牧防災リーダー会 小牧災害ボランティアネットの会 × 防災課 消防本部と防災2団体が 防災啓発ブースを出展

防災課が毎年「市民まつり」市民会館会場で地震車の試乗体験を行っていきます。今年は東日本大震災の教訓を広くアピールしたいと、市民活動団体の小牧防災リーダー会、小牧災害ボランティアネットの会にも声を掛けて規模の拡大をしました。3者がそろい踏み、防災啓発ブースの出展となりました。2団体はこれまでも市主催の「防災訓練・水防訓練」、「消防フェア」などの催しに率先して協力



▲市民まつり初日はあいにくの雨模様でしたが、小牧防災リーダー会の提供した防災クイズのコーナーには絶え間なく市民が訪れました。



▲いざという時に役に立つロープワークの実技指導を行う小牧ボランティアネットの会です。

してきました。今回は被災地救援にボランティアとして参加した経験から現状を伝え、防災への関心を深めてもらうにはまたとない機会だと、快く引き受けました。同ブースでは地震車の持ち込みのほか、震災現場の写真約120点を展示しました。さらに防災グッズの紹介、オリジナル防災クイズ、チャリティ募金のコーナーも設け、楽しく学べる防災啓発に努めました。



▶会場入口のラジオ貸し出しブースでは、利用者にFMラジオの操作方法や注意事項を説明し、手渡します。

ラジオの準備や当日の放送ブースの設営とガイダンス、またラジオの貸出受付はまちの放送局つくる隊が担当しています。サービス開始から4年、毎회가試行錯誤という状況の中、問題点はその都度改善を図り、今では新能の上演には欠かせないサービスとなっています。

## みなさんの活動を バックアップします

小牧市市民活動センターを  
ご利用ください

市民の皆さんの市民活動（NPO活動、ボランティア活動、サークル活動）を支援するスペースで、平成17年6月にオープンしました。

助成金情報や協働のアドバイスなど、市民活動に関する相談ができます。また会議室や印刷機（有料）などの利用もできます。

現在、こまき市民活動ネットワークと協働推進課の協働で運営管理しています。



▲センターのスタッフが、市民活動や協働に関する相談に応じます。

場所 市公民館4階  
開館時間 午前10時～午後6時  
※月曜日、年末年始（12月29日～1月3日）休み

### ケース スタディ

## 3

味噌岡児童館をつくる会×子育て支援課

より地域に根ざした児童館を目指して  
「味噌岡児童館をつくる会」が発足

「味噌岡児童館をつくる会」は、新しい味噌岡児童館の完成（平成24年予定）に向け、児童館を地域住民や利用者にとって、より身近で親しまれるものにすることを目指して活動しています。

設計段階での、子どもたちも交えたワークショップをきっかけに、現在では、中高生から大人まで100人以上が「つくる会」に登録し、ワクワクするような児童館の使い方や参加してみたくなるイベントのアイデアをみんなで検討しています。関心のある方は誰でも参加可能です。

8月には、「つくる会」と味噌岡児童館のコラボレーションにより、今まで以上にスケールアップした児童館まつりも成功させました。

事務局の子育て支援課と共に、地域住民が主体となって行う、児童館をより地域に根ざした楽しい場所にしていこうとする試みは、子育て支援や子どもの健全育成か

ら、地域社会の活性化にまで繋がる大いなる可能性を感じさせます。  
※詳しい活動は市ホームページ  
(<http://www.city.komaki.aichi.jp/contents/00000689.html>)でも紹介しています。



▲児童館が“生まれ変わる”“人と人をつなぐ”の意味を込めて「リボン味噌岡」を開催。地域住民のサークルによる各ブースも大盛況でした。（平成23年8月）

「協働提案事業化制度」の流れ

協働で解決すべき問題など

①市民提案型  
"きらめき"  
市民団体から協働事業の提案を募集します。

②行政提案型  
"はばたき"  
市から協働事業を提案し、連携団体を募集します。

③アイデア提案型  
"ひらめき"  
個人からの協働アイデアを募集します。



審査選考

事業化決定

事業詳細の協議  
(協働する両者)

事業の実施・検証

問題などの解決

市民と行政が手をつなぐ「協働元年」の幕開け  
平成24年度から、「協働によるまちづくり」を後押しする新しい仕組みとして、市民と行政がお互いの理解と信頼のもと、目的を共有し、連携・協力して地域の公共的な問題を解決する「協働提案事業化制度」

「協働提案事業化制度」スタート

皆さんの熱意や知恵を「協働によるまちづくり」への「カギ」に変えます

協働提案事業化制度導入のメリット

全体

小牧市を支えるさまざまな立場の方がまちづくりに参加することにより「みんなでつくる小牧」の創造につながります！

市民活動団体

団体のところざしをカタチに変える機会が充実し、

「絆で結ばれた小牧」へ

市民

みなさんのアイデアや力を市政に活かす機会が充実し、

「市民が元気な小牧」へ

行政

みなさんのニーズを市政に反映する機会が充実し、

「市民に身近な行政」へ

が登場します。  
市民（市民活動団体）と市のそれぞれから提案された地域課題に協働で取り組むことにより、本市を「市民が輝く活気あふれるまち」にしていきたいと思えます。  
協働によって、行政では応じきれない多様な市民ニーズにも柔軟にきめ細やかに対応できるようになるとともに、市民の思い、知恵や熱意が市政にダイレクトに反映され、市民の市政参画機会が充実します。  
※この制度の応募方法、募集期間など、詳しい募集内容については、広報こまき2月15日号に掲載します。

● 協働提案事業化制度説明会 ●

協働の提案をご検討の皆さん、ぜひご参加ください。

内容 「協働提案事業化制度」の概要、事業の流れ、提出書類の記載方法など

日時 2月23日(木)午後7時～

場所 市公民館4階視聴覚室

定員 50人(当日先着順)

「絆力」を高め、ふれあ  
いと支えあいに満ちた  
小牧を創造します



小牧市長

山下 史守朗

私は、市長に就任以来、「市民の市政参画や協働の推進」を基本方針の一つとして掲げ、「住民の自立と互助の精神に支えられた、創意と活力に富んだ地域自治の創造」を目指しています。

そのような中、昨年3月11日に発生した東日本大震災では、人と人とのつながり、地域の絆の大切さをあらためて実感することとなりました。

地域の自立が問われる地方分権時代、行政だけでは担いきれない課題も生じてきています。また、少子高齢化もさらに進行し、お年寄りの見守りや子どもの健全育成など、これまで以上に力を傾けていかなければならない取り組みが増えてくることも予想されます。

そのため、いま一度自治の原点に立ち返り、市民の皆さん

と行政がともに手を取り合い、協働により私たちの小牧を魅力と活力あふれるまちへと育んでいきたいと考えています。

この実現に向け、このたび、皆さんの知恵やお力を市政に反映し、協働で公共サービスや地域課題などに取り組む「協働提案事業化制度」を創設しました。この制度は、団体のみならず、個人の方からも提案を受けられるようにしており、制度を通して多くの皆様に市政に参画する機会となることを願っています。

今後も、市民と行政が一丸となって、ふれあいと支えあいに満ちた小牧の創造を目指していきたいと考えていますので、皆さんからのすばらしい提案をお待ちしています。



▲タウンミーティング～市民参画による「協働のまちづくり」～  
(平成24年1月15日)

## 小牧の特性、市民の感性を反映した 個性的なまちづくりへ

今回、「協働によるまちづくり」をテーマに、協働の必要性や事例、新しい制度の紹介をさせていただきました。

近年、市民一人ひとりのライフスタイルや価値観の多様化が進み、市による画一的な公共サービスでは対応できないニーズが増えています。一方で、子どもの安全、単身高齢者の見守り、災害時の救助など、わたしたちの生活の中には、一人の努力だけでは解決できない問題も多くあります。

しかし、人口減少と高齢化が同時進行し、厳しい財政状況が予想される中、今後も増えていくさまざまなニーズに対して、すべてを市で対応することには限界があります。

こうしたときに、地域のことを一番よく知っている市民が主役になって考え、地域や市などと、支えあひ、ふれあひながら取り組んでいけば、解決への糸口が見えてくるはずですよ。

現在、国が持っている権限や財源を都道府県や市町村に移して、地域のことば地域で決めて責任を持つてやる」という地方分権改革が進めら

れています。市や町にはそれぞれの特性があり、もちろん小牧にも小牧の特性があります。この小牧の特性に合ったまちづくりを、市民の一番近いところで、小牧を支えるさまざまな立場の方々が力を合わせて行えば、皆さんの求めているサービスを提供することも、きめ細かい対応もできるようになるはずです。

このように、市民同士が協力したり、市民と市が協力して地域のいろいろな課題を解決して、住みやすいまちにしていくことが、「協働のまちづくり」なのです。

さあ、一緒に「協働によるまちづくり」へのステップを踏み出しましょう。

この特集は協働推進課と「こまき市民活動ネットワーク」との協働による企画、取材でまとめました。

問合先 市協働推進課 (☎76-

1149)、こまき市民活動

ネットワーク (☎74-401

1)